

②ブレードホースを白い線までネジ式カプラに差し込みます。

③ネジ式カプラの赤いシールが見えなくなるまで黒ナットを締めます。

④Cリングをネジ式カプラの青色の溝にハマ込みます。

完成図
ブレードホースを白い線の位置まで差し込んでいます。
ネジ式カプラの青色の溝にCリングがはまっている。
赤いシールが見えない位置まで黒ナットが下がっている。

注意 水が出なくなるおそれがあります

ブレードホース(湯側・水側)の施工上の注意点

①ブレードホースの折れに注意してください。ブレードホースを最小曲げ半径(60mm)よりも小さく曲げて使用すると、ブレードホースが折れることがあります。折れた部分で早期破壊を生じる可能性があります。施工時には最小曲げ半径(60mm)よりも小さく曲げないようにし、注意してください。

②ブレードホース端面から極端に屈曲して、施工しないでください。

③ブレードホース同士の不要な接触は避けてください。外部補強層の摩擦による外傷でブレードホースの性能が劣化するおそれがあります。

① R60以上
② R60以上
③ 半径60mm以上
④ せいまい

取り付けの間隔がせまく、標準のブレードホースが屈曲してしまう場合は、400mmタイプまたは580mmタイプのブレードホースを用いて屈曲しないよう、図の様に付けてください。

1-⑥フレキシブルホースを吐水口側の銅管(湯水混合)に取り付ける

①フレキシブルホースをシンク下に引き出して、銅管(湯水混合)に接続してください。

注意 漏水の原因となります
必ず【手順①】～【手順②】に従って、Cリングをワンタッチカプラに取り付けてください。

①銅管にワンタッチカプラをカチッと音がするまで確実に差し込んだあと、フレキシブルホースを引っ張ってはずれないことを確認します。

②Cリングをワンタッチカプラに取り付けます。Cリングの取り付けは、必ずワンタッチカプラと銅管を接続したあとに行ってください。先にCリングを取り付けるとワンタッチカプラを銅管へ接続できません。Cリングを取り付けたあと、フレキシブルホースを引っ張ってはずれないことを再度確認します。(接続が不完全な場合、漏水の原因となります)

銅管先端の保護材を取りはずします。

ワンタッチカプラ
フレキシブルホース
フレキシブルホースを下に引っ張り確認する。

②銅管(湯水混合)を正面からみて15°右に曲げます。

寒冷地仕様の場合

銅管(湯水混合)
ワンタッチカプラ ※パッキン内蔵
水抜き継手 ※パッキン内蔵
フレキシブルホース

①フレキシブルホースに水抜き継手を回して取り付ける。

水抜き継手の中のパッキンが脱落していないか確認してください。

②水抜き継手にワンタッチカプラを取り付ける。

ワンタッチカプラの中のパッキンが脱落していないか確認してください。

③銅管にワンタッチカプラをカチッと音がするまで確実に差し込み引っ張ってはずれないことを確認する。

④Cリングを取り付けたあと、フレキシブルホースを引っ張ってはずれないことを確認する。

注意 水漏れのおそれがあります
フレキシブルホース、水抜き継手、ワンタッチカプラの接続には適切な工具を使用し、締め込み後は十分に締め込まれているか確認してください。

1-⑦水道配管の止水栓を開ける

レバーハンドルが閉じていることを確認してから、配管部およびシンク下の止水栓(湯側・水側)を開けます。

⑤

フレキシブルホースの収納と水受けボックスの取りはずし方

【収納】
水受けボックスを下に引いて固定します。

フレキシブルホースを取納します。

【取りはずし】
左図のようにして水受けボックスを持ち上げ(①)手前に引いて(②)取りはずします。

1-⑩ホースストッパーを取り付ける

フレキシブルホースをはさみ込みます。

1-⑩設置位置一覧表参照。

ホースストッパー

ホースストッパー位置は1-⑩の(シンク下での水受けボックス、ホースストッパー設置位置の目安)を参照してください。

【取り付け上の注意】
浄水器の引き出しすぎにより、フレキシブルホースが元の位置に戻らないおそれがあります。フレキシブルホースが元の位置に戻るよう、引き出し長さをホースストッパーで調節してください。なお、水受けボックスをご使用の場合は、フレキシブルホースが最も引き出された状態で、フレキシブルホースの最下端が水受けボックスから外に出ないようにホースストッパーの位置を調節してください。

ホースストッパー
フレキシブルホース
水受けボックス

タンクレス仕様の施工の仕方

銅管(湯水混合)を曲げて、フレキシブルホースが止水栓に接触しないようにする

①-1 銅管(湯水混合)を正面からみて25°右に曲げます。
※銅管を曲げるときは、折り曲げ位置に注意してください。銅管ガイドが銅管からはずれ、フレキシブルホースがスムーズに取り扱えない可能性があります。

①-2 銅管(湯水混合)を正面からみて15°手前に曲げ、止水栓や他部位に接触しないようにします。

② 銅管(湯水混合)を正面からみて40~50°(参考値)に曲げます。

銅管(湯水混合)の曲げ位置
取付面から90°(参考値)
40~50°(参考値)
10~20°(参考値)
25°
15°
25°

※寒冷地仕様も同様に行ってください。

ホースストッパーを取り付ける

フレキシブルホースをはさみ込みます。

完成

ホースストッパー

ストッパー位置

フレキシブルホースの長さ	ホースストッパー位置
通常仕様	940mm
寒冷地仕様	400mm

【取り付け上の注意】
浄水器の引き出しすぎにより、フレキシブルホースが元の位置に戻らないおそれがあります。フレキシブルホースが元の位置に戻るよう、引き出し長さをホースストッパーで調節してください。

ホースストッパー
フレキシブルホース

2.取り付けが終わったら

2-①引き出し・収納がスムーズに行えるか確認する

浄水器部の引き出し、収納を数回行い、正常に戻ることを確認してください。スムーズに引き出し入れ出来ない場合は、フレキシブルホースが給水・給湯の銅管部や、水受けボックスに干渉している可能性があります。位置を調整してフレキシブルホースの通る空間を確保してください。

2-②止水栓で吐水量を調節する

使用時、水側全開および湯側全開のときの吐水量が最適となるように水側・湯側の2つの止水栓を調節してください。

レバーハンドル
吐水状態

2-③各接続部の水漏れがないかチェックする

施工完了後は、配管接続部、ネジ式カプラおよび水栓から水漏れのないことを確認してください。

1-⑨浄水器部を取り付ける前に給水管内のゴミなどを洗い流す

レバーハンドルを上げて左右に振り、給水・給湯管内のゴミなどを完全に洗い流してください。その後レバーハンドルを下げて閉じてください。

レバーハンドル
フレキシブルホース
浄水器部
締め付けナット

注意
吐水が飛び散らないよう注意してください。
フレキシブルホース先端の保護材をとりはずします。

1-⑩水受けボックスを設置する場合

<シンク下での水受けボックス、ホースストッパー設置位置の目安>

注意:
設置位置Aには天板の厚みが含まれています。

250
90
天板
床面

①締め付けナットを引っ張り、ネジ部のミンが見える状態にします。

②浄水器部のグリップを持って、締め付けナットにまっすぐ入れます。

③締め付けナットを固定して浄水器部のグリップを回転させて取り付けます。

締め付けナット
グリップ

注意
浄水器部は斜めに取り付けられないでください。浄水器部側のネジ山が削れて故障や水漏れの原因になります。

注意
フレキシブルホースを回転させて取り付けると、ホースがねじれ、故障の原因になります。

1-⑩水受けボックスを設置する場合

<シンク下での水受けボックス、ホースストッパー設置位置の目安>

注意:
設置位置Aには天板の厚みが含まれています。

250
90
天板
床面

注意

- 水漏れ事故防止のため、当社製水栓金具「みず工房」以外のものに取り付けられないでください。
- 水栓本体のスパウトから水が多量に入った際には、水受けボックスを取りはずし、滞留水を捨ててください。
- フレキシブルホースが最も引き出された状態で、フレキシブルホースの最下端が水受けボックスから外に出ないように、ホースストッパーの位置を調節してください。
- 変形するおそれがあります。40℃以上にならない場所に設置してください。

フレキシブルホースのセッティングの仕方
通常仕様の場合
寒冷地仕様の場合(水抜き継手)
ホースストッパー位置

■JL3シリーズ

通常仕様	フレキシブルホースの長さ	設置位置(A)	ホースストッパー位置(B)
寒冷地仕様	940mm	310mm	400mm

■JL3シリーズ(分岐付水栓)

通常仕様	フレキシブルホースの長さ	設置位置(A)	ホースストッパー位置(B)
寒冷地仕様	1050mm	340mm 360mm	460mm 490mm

フレキシブルホースのセッティングの仕方
通常仕様の場合
寒冷地仕様の場合(水抜き継手)
ホースストッパー位置

①
フレキシブルホースが水受けボックスの中に収まるように水受けボックスの高さを調節します。

②
調節した位置でフレキシブルホースを抜き、ビス取り付け位置を図のようにペンなどでマーキングします。

③
マーキングした位置にドライバーでビスを取り付けます。ビスは水受けボックスの厚み分残して締め込んでください。

④
水受けボックスの穴をビスに通します。

2-④本体部がガタついていないかチェックする

施工完了後、本体部にガタつきがある場合は、固定プラグ用キャップをはずし、六角レンチ(4mm)でセパレートユニット固定プラグを増し締めしてください。

増し締めしたあと、本体下カバーに固定プラグ用キャップをハマ込んで目隠しをしてください。

施工完了後、品質表示/節湯C1タグは本体に取り付けておいてください。

【JL3シリーズの場合】
【JL3シリーズ分岐付水栓の場合】

固定プラグ用キャップ
六角レンチ(4mm)

本体下カバーを反時計回りに回す際、約70°回したあたりで引っかかりがある場合がありますが、そのまま約90°までゆっくり回し、[takagi]マークを本体部正面の位置にして固定プラグ用キャップをハマ込みます。

1-⑤参照ください。

3. 食器洗い乾燥機とつなぐには(分岐付水栓の場合)

注意 分岐水栓接続口からはお湯が出ます。食器洗い乾燥機を使用する場合には、必ず給湯温度を60℃以下に設定してください。

JH9007 パチット分岐水栓
※食器洗い乾燥機の接続部がコネクタータイプのものが使用できます。

※食器洗い乾燥機の位置に合わせて分岐水栓は左右のどちらにも取り付け可能です。

3-①分岐用ねじをはずす
止水栓を閉めたあと(1-⑩参照)、接続したい側の分岐用ねじをドライバー(-)などではずしてください。

分岐用ねじ
本体下カバー

注意
分岐用ねじ、Oリングは紛失しないよう大切に保管してください。

3-②キャップをはずす

分岐水栓本体に付いているキャップをはずしてください。

キャップ
パッキン
分岐水栓本体

注意
水漏れの原因になります。パッキンを紛失しないようにしてください。

3-③アダプターを取り付ける

分岐水栓のアダプターを水栓本体に取り付けてください。
※六角レンチ(6mm)で締めつけてください。

分岐水栓本体
アダプター
六角レンチ(6mm)

注意
破損のおそれがあります。締め込み過ぎないでください。(適正締め込みトルク10N・m)

3-④分岐水栓本体を固定する

パッキンを袋ナットにハマ込み、袋ナットを回して分岐水栓本体を固定してください。

袋ナット
パッキン
分岐水栓本体
切替レバー

注意
分岐水栓本体を取り付ける際は、必ず切替レバーを「とじる」の状態にしてください。

3-⑤取り付けがおわったら

止水栓を開けてください(1-⑦参照)。その後、水漏れがないことを確認してください。

免責事項

以下の事項にて発生した損失や損害に対して株式会社タカギは一切責任を負うものではないことをあらかじめご了承ください。ご利用はお客様の責任で行っていただきますようお願いいたします。

- 施工説明書などに基づかない施工、専門業者以外による移動・分解・改造などに起因する不具合。
- 建築躯体の変形(強度不足・ゆがみ)など製品本体以外の不具合に起因する製品の不具合。
- 電気・給水などの供給で指定された以外の環境に起因する故障および損傷。
- 自然現象や住環境に起因する結露、染み出し・かびなどの現象。
- 水道に関する国の基準(水道法)に定められた飲料水の水質基準に適合しない水を給水したことに起因する不具合。

■アフターサービスについて
破損した部分の交換や設置、使用上のご不明な点など、本商品に関する事柄は、当社までお問い合わせください。

■商品に関するお問い合わせは
タカギ・コミュニケーションセンター ミズはよい水 受付時間 8:30~18:00(年中無休)
*受付時間外でも、修理など緊急の際は音声ガイダンスより
0120-328-413 *専用番号をご案内いたします。

株式会社 タカギ
https://www.takagi.jp/